

○8番（櫻井 茂君） おはようございます。8番・櫻井 茂です。

まず、台風10号の迷走によりまして豪雨が続き、災害対応に当たられました市長以下、市職員及び関係者の皆様、大変お疲れさまでございました。人的被害がなかったということでお聞きしております。取りあえずよかったかなと思っております。お疲れさまでした。

また、引き続いての議会对応、こちらのほうはよろしくお願ひしたいと思います。

それでは、通告いたしました2項目について、一問一答方式で質問をさせていただきます。本日の天気のように、爽やかに質問させていただいて、爽やかな答弁をいただければと思っておりますので、よろしくお願ひします。

まず、1点目です。イベント広場の利活用についてお尋ねしてまいります。

イベント広場に図書館及びふるさと歴史館を複合施設として整備し、併せて民間企業の進出について、サウンディング型市場調査を行うことが説明されております。イベント広場は、平成9年度に公共用地先行取得事業債を活用し、13億8,000万円余りで購入されております。公共事業に活用するため、目的を決めず先行して取得できる制度を活用したわけですが、それから25年が経過し、ようやく活用方法が決まろうとしております。

このイベント広場は、中心市街地活性化基本計画に定められている地域内に位置しておりまして、中心市街地活性化に向けた利活用も想定する必要があると思っております。どのような方向性でイベント広場の利活用を進める方針なのかについてお尋ねしてまいりますので、よろしくお願ひいたします。

1番としまして、イベント広場利活用の方向性についてであります。イベント広場は、購入後は企画部門で維持管理を行ってまいりました。その後、中央図書館に隣接しており、中央図書館の利用者の駐車場として利用されていたことから、平成19年度から、教育委員会の中央図書館が維持管理を担うところとなっております。

1)としまして、イベント広場の利活用に関し、今回の提案はどこが担当となり、どのような役割を担うのか、具体的かつ分かりやすい説明をいただきたいと思っております。

○議長（関口忠男君） 市長直轄組織理事・浅田君。

○市長直轄組織理事兼駅周辺にぎわい創生担当兼イベント広場利活用担当（浅田禎智君） ご答弁申し上げます。イベント広場利活用に関する検討体制でございますが、市長直轄組織が中心となり、作業を進めているところでございます。現在、公共施設部分といたしましては、図書館、ふるさと歴史館、おまつりに関するスペースを想定してございます。この公共施設部分につきましては、教育委員会事務局が中心となり、整備方針、施設の規模や具体的機能などについて検討を進めております。

また、サウンディング型市場調査をはじめ民間企業との調整につきましては産業戦略部、中心市街地の活性化につきましては市長直轄組織、民間事業者へ整備を求めていく子育て支援に係る機能につきましては子育て健康部といった形で、各所管部で個別具体的な検討を行うとともに、庁内横断的に総合的な検討、調整を進めているとこ

ろでございます。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） ただいま、担当と役割を答弁いただきました。

そこで、市長にお尋ねいたしますけれども、今答弁いただいた担当と役割は、組織を束ね、人事権を持つ市長の指示によるものということと理解してよろしいのでしょうか。また、その際、市長は、今回の施設整備に向けてどのような指示をそれぞれの所管——部長といったらいいのですかね——に与えているのか、お尋ねをいたします。

○議長（関口忠男君） 市長・谷島君。

○市長（谷島洋司君） お答えします。このイベント広場の利活用検討につきましては、中心市街地の活性化の観点から、図書館などの公共施設と商業施設の複合化の可能性について検討することを指示いたしまして、スタートしたものでございます。その検討に当たりましては、市長直轄組織に対しましては中心市街地活性化方策の検討、市長公室に対しましては各部局間の総合調整、財務部に対しましては財政的視点からの実現可能性の検討、当時の保健福祉部に対しましては子育て支援に係る機能の検討、産業戦略部に対しましては民間事業者等との調整と事業者決定方法の検討、教育委員会事務局に対しましては図書館、ふるさと歴史館等の検討を、各部局に対して指示したところでございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） ありがとうございます。そうしますと、理事から答弁いただいたよりも細やかに、各部長、所管に指示をされているということが分かりました。ありがとうございます。

次に、公共用地の利活用につきましては、市にとって利益となることが前提でございます。今回は、複合施設整備に併せまして、同じ敷地内に民間企業の商業施設を誘致しようという計画が進められております。しかし、その必然性については、これまでに具体的な説明は受けていないように思います。

2)といたしまして、複合施設と民間企業の構成でイベント広場を利活用する理由、こちらをお尋ねいたします。

○議長（関口忠男君） 市長直轄組織理事・浅田君。

○市長直轄組織理事兼駅周辺にぎわい創生担当兼イベント広場利活用担当（浅田禎智君） ご答弁申し上げます。石岡イベント広場につきましては、先ほども櫻井議員からありましたように、平成9年に、中心市街地の活性化を目的に、公共用地先行取得等事業債を活用し取得した経緯がございます。現在、イベント会場や駐車場といった利用形態が続いておりますが、過去には図書館建設の検討がなされたことを踏まえ、土地の有効活用という視点から、今回この土地に、老朽化が進む中央図書館とふるさと歴史館を再整備していきたいと考え、検討しているところでございます。

さらに、周辺に多くの住宅地を抱えるイベント広場の特性を踏まえますと、石岡市立地適正化計画にありますように、商業施設のような市民生活を支える機能を備えることにより、持続可能な地域づくりに取り組んでまいりたいと考えてございます。公共施設と民間施設を併設させることにより、相乗効果によるさらなる利便性の向上を

図り、中心市街地の活性化につなげていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） まず優先して考えるのは、イベント広場の優位性です。地理的な優位性、いろいろあると思いますけれども、公共施設整備でどのような利益、効果を求めるのかを、市民、そして議会に示してほしいと思います。民間企業誘致の話は、市がイベント広場に何の対策もしないのなら、民間企業を入れたらどうかという話からスタートしていると、私は記憶しております。民間企業ありきではないと思っております。うがった見方をすれば、今回提案されている複合施設と民間企業の誘致をすると、イベント広場に誘致するので、議会の多数意見である、市民ホールを核とする複合文化施設はイベント広場という議会の意見を、潰すための提案と見えなくもありません。実際、そう指摘する市民もおられます。

いずれにしても、民間企業誘致を考えるのであれば、仮定の話としまして、民間施設建設によって、例えば固定資産税で年500万円、地代で年1,800万円というような数字を含めて説明いただかないと、メリットが実感できません。私がただいま申し上げた数字はさしたる根拠はありませんけれども、民間企業によって得られる利益が明確に分かりませんので、その選択が正しいのか、そうでないのかの判断もできません。

執行部はどのような見通しをお持ちなのか、お尋ねしてまいります。

○議長（関口忠男君） 市長直轄組織理事・浅田君。

○市長直轄組織理事兼駅周辺にぎわい創生担当兼イベント広場利活用担当（浅田禎智君） ご答弁申し上げます。民間施設を併設することにより想定されるメリットでございますが、先ほど櫻井議員からもありましたように、税収や借地料といった収入増加が期待されることが挙げられます。固定資産税や借地料について、一定期間にわたり収入として見込めることに加え、新規雇用の創出に伴う収入増も期待できるなど、市の財政的観点から大きなメリットがあるものと考えております。また、採用する事業手法によっては、コスト縮減や財政負担の平準化とともに、施設整備に係る職員負担の軽減を図ることができるものとも考えてございます。

官民連携により期待されるメリット等につきましては、今後実施いたしますサウンディング型市場調査の中で、参加事業者に対してヒアリングを行ってまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） 基本的には、イベント広場の利活用については、公共用地先行取得事業債の目的から見ても、民間企業の誘致を最優先とする事業推進であってはならないということは、申し上げておきたいと思っております。

3)です。提案されている複合施設の構成は、誰がどのような検討を行って意思決定され、今回の提案となったのか、お尋ねいたします。

○議長（関口忠男君） 市長直轄組織理事・浅田君。

○市長直轄組織理事兼駅周辺にぎわい創生担当兼イベント広場利活用担当（浅田禎智君） ご答弁申し上げます。現在、公共施設機能といたしましては、図書館、ふるさと歴史館を想定しているところでございます。現在、検討を進めております新ホール建設につきまして、石岡駅東側へ整備するという庁内方針の決定を受けまして、イベント広場につきましては、老朽化が進む図書館やふるさと歴史館といった公共施設の整備と、以前から民間事業者により提案をいただいております商業施設による複合的な整備について、検討を進めているところでございます。

公共施設部分につきましては、先ほども申し上げましたとおり、老朽化が進む図書館やふるさと歴史館について、その再整備が課題であったことから、複合施設として整備することについて検討を始めたところでございます。茨城県内最古の図書館として貴重な文献を備える中央図書館と、かつて国衙が置かれていた常陸国の歴史を伝えるふるさと歴史館を複合施設として再整備することにより、相互連携を図りながら、石岡市の歴史や文化を発信していく施設として整備していきたいと考えてございます。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） ただいまの答弁ですけど、私の質問に答えていません。誰がどのような検討をしたのかと質問しましたがけれども、その答えが、庁内方針の決定を受けたということであります。誰がどのような検討をし、庁内方針を決めたのかお答えいただかないと、答弁になっておりません。

そして、この庁内方針の決定とは具体的に何を決めたのか。場所なのか、施設の構成なのか、誰もが分かるように、抽象的な単語は除いて、再度ご説明いただきたいと思っております。

○議長（関口忠男君） 市長直轄組織理事・浅田君。

○市長直轄組織理事兼駅周辺にぎわい創生担当兼イベント広場利活用担当（浅田禎智君） ご答弁いたします。今回の石岡イベント広場の利活用につきましては、庁議におきまして、審議会からの中間答申を踏まえ、新ホールは駅東地区へ整備を進めていくという基本的な方針が示されたところでございます。これを受けまして、イベント広場の利活用という視点から、老朽化が進む図書館とふるさと歴史館の再整備について市長から指示があり、検討をスタートしたものでございます。その後、政策調整会議で検討を進めてきたところでございますが、現在は、副市長を議長として関係部長で構成いたします石岡イベント広場利活用検討会議において、検討をしているところでございます。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） 図書館とふるさと歴史館の老朽化、これに伴う複合施設として整備するという理由は分かります、ここは。古くなったので新しくしたいと。これは市民からの要望も強いわけですから。

しかし、答弁いただいたように、審議会の中間答申というお話がありましたけれども、審議会に示しているのが、そもそも駅東地区の用地に市民ホールを核とした複合

文化施設という提案をしているんですよね。イベント広場も含めて、用地はどちらがいいですかという、議会の議論と同じレベルでのスタートをしていないように私は理解しています。審議会は、示されたデータ、そして、駅東地区に建てようという執行部の思いを基に、そうであるならば施設の構成はこういう形、こういう機能を持っていたほうがいいよねという、もうスタートラインから違うんですよね。

その辺も含めまして、議会における一般質問や複合文化施設建設特別委員会におきまして、市民ホールを核とする複合文化施設は、議会ではイベント広場へ建設したほうがよいという意見が多数となっているように、私は感じています。にもかかわらず、答弁からは、そうした市民ホールをイベント広場にという今回の提案に対して、検討した様子さえ伝わってきません。非常に残念であります。

そこで、市長にお尋ねしますが、議員の質問や意見をどのように受け止めておられるのか。今回の庁内方針を決定する際に、議員の質問や意見は、市長の政策決定に何の影響も与えていないのでしょうか。確認させていただきたいと思います。

○議長（関口忠男君） 市長・谷島君。

○市長（谷島洋司君） お答えします。先ほど担当理事からの答弁にもありまして、今回、石岡イベント広場につきましては、中心市街地の活性化という観点から、官民連携による事業実現の可能性について検討を進めているところでございます。民間事業者と連携することは、相乗効果による集客性や利便性の向上のほか、借地料や固定資産税といった収入確保の点でも、期待できるところでございます。そのような中で、行政、民間事業者双方がそれぞれの考え方や方針をしっかりと提示しながら検討を進め、最終的には市民にとって利便性が高い施設が整備されるように進めていかなければならないと認識しております。

4月の市長選挙におきまして、多くの市民の皆さんから、早く市民会館が欲しいという声を多くいただいてまいりました。そういった中で、私としましては、今お話ししたようなことも踏まえながら、しっかりと駅東地区に市民ホールを造っていきますというところで、市民の皆さんに訴えてまいりました。そういった意味からも、まずは、今進めてきた方針に基づいて、検討を進めてまいりたいと思っているところでございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） 市長から選挙のお話が出ましたので、この後の質問で、私はその話はするつもりはなかったんですけれども、選挙の話はこの後、ちょっと触れたいと思います。

市民の方から市民ホールを早く建設してほしいと、これは皆さん言っています。市長の言うとおりでと思います。ただ、場所は、市民の方々はどっちでもいいと言っているんですよ。市民会館を早く造ってほしい。これがまず第一の優先課題なんです、市民にとっては。であるならば、議会の意見もしんしゃくして、まず、今回のイベント広場に建てようとしている複合施設の構成の中に市民ホールも検討しましたけれども、いろいろな、理由はどうなのか分かりませんが、執行部の考えの中で、それは外させていただいたというのが、まずあってしかるべき答弁なのかなと私は思います。今の答弁だと、市長は議会の意見を無視しているように、私は聞こえてしまうん

ですね。

議会、あるいは複合文化施設の特別委員会の議事の進行状況、会議録を読めば、議員のイベント広場がいいんじゃないかという意見は当然分かりますので、それらをしっかり把握した上で、議員の反対する理由を超えた理論武装をして説明していただかないと、納得できないと思います、議会は。今のままではまたゼロベースに戻ってしまいかねませんので、しっかりと検討していただきたいと思います。

次に、2つ目の質問です。公共施設と民間企業施設の共存に対する考え方を伺います。先ほどは、民間企業誘致の必然性、メリットをお尋ねしました。仮に同じ敷地内に併設となるのであれば、建物の配置、駐車場の共同利用や出入口の位置取り、動線の設定など、共存に向けての工夫が当然必要になってくるわけでありますので、どのような考えで臨むのか、お尋ねします。

○議長（関口忠男君） 市長直轄組織理事・浅田君。

○市長直轄組織理事兼駅周辺にぎわい創生担当兼イベント広場利活用担当（浅田禎智君） ご答弁申し上げます。石岡イベント広場に図書館やふるさと歴史館といった公共施設と民間施設を整備していくに当たりましては、建物の配置や必要な駐車場台数の確保など、土地利用1つ取りましても、多くの調整すべき事項があるものと認識しております。

石岡イベント広場は市の所有地であります。また、今回、官民連携では、民間施設のみならず公共施設の整備も行っていく予定でございます。このような観点から、事業の計画・立案においては、市の考えや方針を明確にし、反映させていく中で、行政と民間事業者が連携していくことにより、中心市街地の活性化という大きな目標に向けて、取り組んでいくことが重要であると考えてございます。今回、実施される予定でありますサウンディング型市場調査の結果なども受けまして、まずは市の考え、方針といった点をしっかり整理し、実現可能な事業計画の検討を進めてまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） そうですね。よろしくお願ひしたいと思ひます。

3点目です。事業を進める際の優先順位をお尋ねしてまいります。通告では、機能・面積・建物の配置・予算・スケジュール等ということで示させていただきました。こういったことを含めて、どのような優先順位なのかということをお尋ねしたいと思ひまして、記載させていただいたところでは、

限られた予算、限られた面積の中で、複合施設設置と民間企業の進出を行うという構想でありますので、本来、公共用地に建設する以上、公共施設を優先して面積を確保し、配置を考えるべきだと思ひますけれども、この優先順位をどのように考えているのか、お尋ねをいたします。

○議長（関口忠男君） 市長直轄組織理事・浅田君。

○市長直轄組織理事兼駅周辺にぎわい創生担当兼イベント広場利活用担当（浅田禎智君） ご答弁申し上げます。石岡イベント広場では、公共施設と民間施設を融合させた土地利用により市民の利便性を向上させ、中心市街地の活性化に取り組んでいき

いと考えてございます。検討におきましては、老朽化が進む中央図書館とふるさと歴史館の再整備といった公共施設の機能を最優先に進めていきたいと考えてございます。また、建蔽率や容積率により敷地に対して建築可能な建築面積は制限されている中で、ただいま申し上げました公共施設機能の建築面積を優先的に確保していきたいと考えてございます。

また、事業を実現させるためには、予算の確保が重要であると認識しております。現時点では、合併特例債と国からの交付金、具体的に申し上げますと、国土交通省が所管します都市構造再編集中支援事業交付金といった財源を想定してございます。今回活用を見込んでおります2つの財源につきましては、令和12年度といった期限付となっておりますことから、それまでに事業を完了させていく必要があるものと考えてございます。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） そうですね、令和12年度が合併特例債の期限となっておりますし、これを外すと、事業費の約35%の合併特例債の活用による交付税措置ということで、大きな金額を一般財源で肩代わりしなきゃなりませんので、今回、先ほど質問しました市民ホール、複合文化施設、あるいは保健センターも今後出てくると。学校関係の統廃合による施設改修もあるでしょうし、大きなお金がどんどん施設整備・修繕にかかることになりますので、ぜひ令和12年、合併特例債利用という、これを念頭に置いて進めていただければと思いますので、よろしくお願いします。

4番目、サウンディング型市場調査の進め方を具体的にお尋ねしたいと思います。

○議長（関口忠男君） 市長直轄組織理事・浅田君。

○市長直轄組織理事兼駅周辺にぎわい創生担当兼イベント広場利活用担当（浅田禎智君） ご答弁申し上げます。今回実施いたしますサウンディング型市場調査は、市有地等の有効活用に向けた検討に当たり、その活用方法について民間事業者から広く意見、提案を求め、対話を通じて市場性等を把握するものでございます。調査目的といたしましては、現在、検討段階でございます官民連携による石岡イベント広場の利活用につきまして、イベント広場利活用に関する市の方針をはじめ、事業計画や公募条件など、今回、事業の詳細について決定する際の参考とするために実施するものでございます。

調査の進捗といたしましては、8月19日に実施要領を公表し、サウンディング参加受付等を開始したところでございます。今後のスケジュールといたしましては、9月の現地説明会を経て、10月上旬に、サウンディング参加を申し込んだ民間事業者と、対面による対話を実施したいと考えてございます。対話の実施後、結果の概要を作成いたしまして、10月中を目途に公表してまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） このサウンディング調査ですけれども、担当はどの部署で誰が行うんですかね。一番最初の質問で、それぞれの担当の役割、担当はどこなのかと、それで、どのような役割を果たすのかという質問をしまして、その答弁の中で

は、サウンディング型市場調査と民間企業との調整については産業戦略部という答弁をされているんじゃないかと思うんですけど、なのになぜ理事が答弁するのか、私、不思議なんですけど、担当所管が答弁すべきじゃないかと思うんですけど、見解をお尋ねします。

○議長（関口忠男君） 市長直轄組織理事・浅田君。

○市長直轄組織理事兼駅周辺にぎわい創生担当兼イベント広場利活用担当（浅田禎智君） ご答弁申し上げます。最初の所管、役割についてのご説明の中で、サウンディングにつきましては産業戦略部で行ってございます。今回の組織体制の中で、課長級の方8名が併任という形になっておりまして、産業戦略部の中の産業プロモーション課でサウンディング調査は行っているところでございますが、それを統括する中心市街地活性化の部分もでございますので、今回、市長直轄組織でご答弁させていただきます。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） おっしゃっている意味は分かりました。職員の配置図を見ていてちょっと疑問に思ったのは、今まさに理事が発言した内容ですね。要するに市長のほうで、今回のようにいろいろな部署が関係する事業、今回は建物を建てるという事業ですけれども、その際に、縦割りであまりよくないよというこれまで例があったものですから、市長のほうで併任辞令を出しますということ、担当課長が市長直轄組織の下に入るような併任辞令が出ているということだと思うんですけど、そのトップであるそれぞれの所管の部長は、そこに何の関わりもないということではないんですか。

私、不思議なんですけど、今回のサウンディング調査は、要するに産業戦略部の担当課長が担当するわけですよ。にもかかわらずその上司である産業戦略部の部長は、その責任から外されているわけです。その仕事だけは市長直轄組織の中に加わるという、何か私はおかしいんじゃないかと思うんですけど、ちゃんと部として、サウンディング調査であれ民間企業との調整であれ、やるべきじゃないかと思うんですけども、これ、総務部長、どうなんですかね。

総務部長に聞いても、既にそういうことで決定した組織をつくっていますからあれですけど、私はおかしいと思うんですけど、そういう例ってほかでもあるんですかね。担当課長までは……。例えばAという部で、Bという部長の下にAの課長さんがつく。Aの部長は、その決裁権限の中に入らない、意思決定の中に入らないという、組織としてそういう組織をつくっちゃっていいんですかね。私、不思議なんですよね。それを思っていたんですけど、ただいま部長の答弁で、まさにそのことが、そういう形でやっていますと。産業戦略部が担当する仕事なんだけれども、今回は市長直轄組織の中で取り組んで、決裁は自分のほうでやるということ、これを答弁したんですけど、そういう組織でいいんですか。念のためお尋ねしたいと思います。

○議長（関口忠男君） 市長直轄組織理事・浅田君。

○市長直轄組織理事兼駅周辺にぎわい創生担当兼イベント広場利活用担当（浅田禎智君） ご答弁申し上げます。私のちょっと説明不足もあって、申し訳ありません。決

裁につきましては、私どもも決裁をしますし、産業戦略部の部長も決裁をしているというような状況でございます。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） 私にはよく理解できません。決裁をやるんですよね。それだったら、部長が答弁すればいいじゃないですか、産業戦略部長が。なぜ理事が答弁するんですか。私は理解できません。私も元市職員ですけど、それはちょっと庁議で問題にすべき話じゃないですか、本来。これは組織的におかしいですよ。

副市長、どうですか。県の職員でそういうのはあるんですか。副市長も首をかしげているんですけど。訳が分からないですね。

○議長（関口忠男君） 副市長・田所君。

○副市長（田所和弘君） ご答弁申し上げます。庁内横断的に1つの物事をやるために、兼務発令をしております。でも、答弁を理事がやるか、産業戦略部長がやるかという点についてはということはあるんですが、仕事としては、産業戦略部内でも実際に部長も掌握している話ですし、庁内的にもそこは分かっている話ですので、ちょっと答弁の仕方が、なかなか納得いかれない部分であるかもしれませんが、そこは仕事を優先してやっていただければと思っております。

もしこういうふうに修正すればいいんじゃないですかというアドバイスがございましたら、議員からもお願いしたいと思っております。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） 質問しているのは私ですので、私に答弁を求められても困ってしまいますね。私の本意はここを集中的に質問するつもりはありませんので、これはしっかり総務部も部長も研究して……。これはあまりよろしくないと思いますよ、今の考え方は。要するに、議会で答弁するということは、その部長が責任持ってやる、やらないという発言をするという前提ですから、自分が決裁している話、部下がまとめて自分が決裁しているにもかかわらず、議会答弁は違う部長がやるなんていう話は、聞いたことがありません。是正を求めたいと思います。部長に対する併任辞令を出せば、それはいい話なので、よくご検討いただきたいと思っております。

それで、このサウンディング調査、ちょっとどこまで言ったか、よく分からなくなってしまうんですけど、サウンディング調査なんですけど、民間事業者に対して職員が聞き取りを行うのか、業者へ委託するのかを確認させてください。

○議長（関口忠男君） 市長直轄組織理事・浅田君。

○市長直轄組織理事兼駅周辺にぎわい創生担当兼イベント広場利活用担当（浅田禎智君） ご答弁申し上げます。サウンディングの対話の担当でございますが、市の職員で聞き取り調査をする予定でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） 今までいろいろな調査が、委託料を支払って民間事業者ということで、専門的知識を有する方をお願いするんだということでしたけれども、職員も優秀な職員がそろっていますから、ましてや自分のまちの身近な案件ですので、職員がやるということで安心をしました。しっかりと聞き取り調査を行っていただい

て、将来、民間事業者と一緒に事業展開をするわけですから、そういった意味での距離を近づける機会でもありますし、しっかりと調査を行っていただければと思います。

それでは、質問項目2に移りたいと思います。複合施設（図書館・ふるさと歴史館）の整備についてということで、お尋ねをしてみたいと思います。先ほどまでの質問は、総論的なイベント広場ということですが、今回は施設整備の具体的な内容についてお尋ねしてみたいと思いますので、よろしくお願いします。

イベント広場に整備予定の複合施設は、図書館及びふるさと歴史館プラスおまつり展示スペースということで構成され、これらは、市民が長い間、待ち望んでいた施設でもございます。特に「歴史の里いしおか」及び関東三大祭りの誇りを、どのような形でこの施設整備に反映させていくのかについてお尋ねをしてみたいと思いますので、よろしくお願いします。

1番、担当所管と役割、先ほども尋ねましたけれども、改めてこちらでもお尋ねしたいと思います。

○議長（関口忠男君） 市長直轄組織理事・浅田君。

○市長直轄組織理事兼駅周辺にぎわい創生担当兼イベント広場利活用担当（浅田禎智君） ご答弁申し上げます。現在、イベント広場における公共施設機能としましては、図書館とふるさと歴史館、さらにはおまつりに関する展示スペースを複合的に整備していく方向で、検討を進めているところでございます。図書館、ふるさと歴史館のそれぞれの機能の検討につきましては、教育委員会事務局が中心となり、行っているところでございます。また、おまつりに関する展示スペースにつきましては、ふるさと歴史館の一部機能としまして、文化的な視点から検討を進めておりますことから、教育委員会事務局が中心となり進めていくことになるものと考えてございます。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） おまつりに関する展示スペースが教育委員会事務局が中心ということで、私自身は非常に残念な思いがしております。中心市街地の活性化の起爆剤として、関東三大祭りを中心とした展示かと思っております。実際、3月の定例会の一般質問で、そのような意味合いで市長に提案をさせていただいたところです。しかし、どうやら各地域の祭り、民族芸能、民族文化を所管する教育委員会が担当することが分かりまして、少々がっかりしております。この件は、後ほどまた質問させていただきます。

詳細が決まっていない状況でいろいろ質問しますので、申し訳ありませんが、現段階での内容ということで答弁をいただければと思います。

2番目で、建設費用と財源について、具体的なものがないとは思いますが、分かる範囲内で答弁をいただきたいと思っております。

○議長（関口忠男君） 市長直轄組織理事・浅田君。

○市長直轄組織理事兼駅周辺にぎわい創生担当兼イベント広場利活用担当（浅田禎智君） ご答弁申し上げます。まず、建設費用についてでございます。これまで、サウディング型市場調査の実施に向けて、公共施設部分の検討を進めてまいりました。

現時点での想定でございますが、図書館、ふるさと歴史館、さらに共用スペースを合わせまして、4,600平方メートルの建物を想定してございます。建物整備に係る費用といたしましては、1平方メートル当たり約60万円と試算し、概算事業費といたしまして、約27億6,000万円を想定してございます。

次に、財源についてご答弁申し上げます。図書館、ふるさと歴史館、いずれの機能につきましても、国土交通省が所管いたします都市構造再編集中支援事業交付金が活用できるものと考えてございます。交付限度額算定対象となる事業費の上限は30億円、国費率が50%となっておりますことから、それぞれ最大15億円が交付金として充当できる見込みでございます。また、このほか合併特例債、公共事業等債も含め、活用できるものと考えてございます。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） 次の質問です。3点目、整備スケジュールについてもお尋ねしたいと思います。

○議長（関口忠男君） 市長直轄組織理事・浅田君。

○市長直轄組織理事兼駅周辺にぎわい創生担当兼イベント広場利活用担当（浅田禎智君） ご答弁申し上げます。整備スケジュールにつきましては、図書館やふるさと歴史館といった公共施設部分における財源として、合併特例債を活用する場合、新市建設計画の延長に係る手続を経た上で、令和12年度が期限となる見込みでございます。この期限内に事業を完了させる必要があるものと考えてございます。また、国土交通省が所管します都市構造再編集中支援事業交付金につきましては、別途検討を進めております新ホール整備の財源として想定しているところであり、根拠となります都市再生整備計画の計画期間を、令和8年度から令和12年度を予定しているところでございます。合併特例債と同様、令和12年度が期限となる見込みでございます。

整備スケジュールにつきましては、ただいまご説明申し上げました活用する財源とともに、採用する整備手法や埋蔵文化財に係る調査期間等、様々な要因を考慮しながら設定していく必要がございます。一方、図書館、ふるさと歴史館、いずれも施設の老朽化が進む中で、早期の施設整備が待たれる状況であることは認識してございます。今後、これらの状況を総合的に踏まえた事業スケジュールについて、検討を進めてまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） 整備スケジュールの厳守、これをよろしく願いたいと思います。

4点目です。図書館の整備方針を伺います。石岡駅東に市民ホールと図書館から成る複合文化施設として、当初、提案された計画がゼロベースに戻りました。今回は、イベント広場に図書館を整備するということになるわけですがけれども、駅からイベント広場ということで変わりましたので、どのような点に創意工夫されているのか、もしあれば、それらを含めてお尋ねしてまいりたいと思います。

○議長（関口忠男君） 教育部長・神谷君。

○教育部長（神谷一美君） お答えいたします。現在、新たな図書館の検討におきましては、イベント広場の利活用事業の目的であります中心市街地の活性化に資するため、あらゆる世代が集い、本が人をつなぎ、人がまちをつくる、情報の集積地としての図書館を目指してまいりたいと考えております。特に今回の利活用では、図書館とふるさと歴史館の併設が検討されておりますことから、小中学生の郷土学習や、歴史文化の調査研究に役立つ蔵書に配慮していくなど、幾つかの重点的な目標も考慮してまいりたいと考えております。

また、施設の想定規模でございますが、現在の蔵書数より充実させていくために、開架スペースのほか閉架図書の収納庫、学習スペース、事務室等を合わせ、図書館の専有部分といたしまして2,500平方メートルほどを想定してございます。建物等につきましては、図書館はお子様からお年寄りまで幅広い年代の方に利用していただく施設でありますことから、可能な限りワンフロアで利用できることが望ましいと思われませんが、詳細につきましては、今後、ふるさと歴史館と併せて検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） ありがとうございます。中心市街地の活性化に資する図書館を目指すという決意が答弁で出ましたので、安心をいたしました。

次に、5番目、ふるさと歴史館についてお尋ねいたします。施設整備がようやく実現しようとしております。長年にわたって「歴史の里いしおか」できちんとした博物館、歴史館がないということは、市民も含めて議会も、早く整備してほしいということをお願いしてまいりましたけれども、ようやく具体化しようとして今しています。

整備に向けてこれまで調査を進めてこられたものと推測しておりますので、1)としまして、先進地等の調査・検討内容、どのような検討をされてきたのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（関口忠男君） 教育部長・神谷君。

○教育部長（神谷一美君） お答えいたします。先進地視察につきましては、2つの施設について実施をしております。1か所目は、栃木県下野市にありますしもつけ風土記の丘資料館でございます。下野市は人口約6万人と石岡市とほぼ同規模であり、かつ市内に下野国分寺跡、下野国分尼寺跡がございますことから、訪問をいたしました。次に訪問いたしましたのは、東海村の東海村歴史と未来の交流館でございます。この交流館は、令和3年にオープンした県内でも比較的新しい資料館であることから、視察を行ったものでございます。これらの事例を参考としながら、常設展示室、企画展示室の面積や収蔵庫、展示準備室などの必要な設備を検討しているところでございます。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） 2か所、調査に行かれたということで、いずれも高速道路を使えば2時間以内には到着できるのかなということで、近いところを見に行かれたんだと思います。今回の石岡市の歴史の里としての新たな博物館建設に当たって、その

2か所で十分なのかと言われると、ちょっと違うんじゃないのかなと私は思います。もう少しいろいろなところを見て、勉強していただいたほうがありがたいなという思いがしております。

そうした調査をされたということでもありますので、その整備方針はどのような整備方針を持たれているのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（関口忠男君） 教育部長・神谷君。

○教育部長（神谷一美君） お答えいたします。ふるさと歴史館の整備方針につきましては、図書館と同様に、イベント広場の利活用事業の目的であります中心市街地の活性化を基本としてまいりたいと思いますけれども、昨年度認定を受けました地域計画や、視察などの調査結果を参考として、さらに精査をしてまいりたいと考えております。

また、今回視察いたしましたしもつけ風土記の丘資料館の、火災にも強く、温度・湿度調整可能な特別収蔵庫の在り方や、東海村歴史と未来交流館の、展示替えを行いやすい展示室、準備室を備えた企画展示室など、展示に関する工夫など、視察の結果得ることができた様々な知見については、今後の検討材料として活用していきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） 次に、2)、遺物の保護保存、展示環境の整備についてお尋ねをしたいと思います。まさに今、視察の中でそういった部分も知見を得たというようなお話もありましたけれども、その点について、もう少し具体的にお話しいただければと思います。

○議長（関口忠男君） 教育部長・神谷君。

○教育部長（神谷一美君） お答えいたします。文化財の保存につきましては、特別収蔵庫の設置を考えております。特別収蔵庫は、温度、湿度の管理を24時間行うとともに、防火対策にも備え得るものでございます。展示環境としては、定期的に開催している企画展用のスペースとして、企画展示室を設置したいと考えております。そのほか、展示準備室や荷解き室など、展示の入替えを行いやすいような施設も必要であると認識してございます。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） 今回の施設整備に合わせてその環境が整うということは、非常に喜ばしいことでもあります。ただ、施設の竣工時期が、先ほど来、スケジュールを確認しましたけれども、令和12年度末になる可能性が高いわけでもあります。

一方で、今すぐに対応すべき懸案事項として、重要文化財に相当する漆紙文書の適切な保存環境については、議会で何度も指摘がされています。令和4年に先輩議員が質問し、昨年年第1回定例会では私が質問しました。そして、今年年第1回定例会でも先輩議員が質問しております。

石岡市だけではありません。国の宝とも言うべき漆紙文書——これは非常に貴重なものです——が発見されてから、50年近くになります。一方で、歴史の里というこ

とを非常にキャッチフレーズにコマーシャルしているわけですがけれども、この歴史の里の名に恥じない保存環境の確立を、教育長はどのようにお考えになっているのか、この漆紙文書についても含めて、お尋ねをしたいと思います。

○議長（関口忠男君） 教育長・岩田君。

○教育長（岩田利美君） ご答弁申し上げます。ご質問がありましたように、大変貴重な文化財がたくさん石岡市にはございます。漆紙文書につきましては、現在、八郷総合支所の1階の金庫に所蔵してございますが、温度と湿度の管理ができていないということで、この両方を管理できる保存用キャビネットを設置すべく、調査をしております。このたび、湿度が管理できるキャビネットが見つかりましたので、購入に向けまして、これは早急に関係部局と協議をしております。

また、先ほど部長が答弁しましたとおり、ふるさと歴史館の建設の際には、温度と湿度を管理できる特別収蔵庫を設置することで、適切な保存スペース及び環境を確保してまいりたいと思います。いずれにしても、早急に対応してまいります。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） 漆紙文書の保存環境がようやく整う見込みがついたという答弁をいただきました。非常にうれしく思います。そうであるならば、市長、財務部長、12月の定例会での予算措置を、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

3)です。石岡市は、「歴史の里いしおか」というフレーズをまちの誇りとして、あるいは歴史愛好家の方々へのアピールに、さらには、ふるさと学習や広報資料の中で積極的に活用しております。そこでお尋ねしますけれども、ふるさと歴史館を整備するに当たりまして、この「歴史の里いしおか」をどのように施設に反映させる考えなのか、具体的な方法や対応をお尋ねします。

○議長（関口忠男君） 教育部長・神谷君。

○教育部長（神谷一美君） お答えいたします。石岡市の文化財は、2件の特別史跡をはじめとして、6件の国指定文化財が存在します。このほかにも、古文書や考古資料といった多岐にわたる文化財がございますので、展示内容としましては、旧石器時代から近代にかけての総合的な展示とする予定でございます。また、現在ふるさと歴史館で開催している企画展示も継続し、新しい調査成果についても紹介をしております。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） 部長からいただいた答弁では、残念ながら「歴史の里いしおか」をどのように活用、表現するかは、ちょっと伝わってきませんでした。

市長はどのような考えを持っているのか、お尋ねしたいと思います。建物のデザイン、展示の仕方、職員の対応など、さすが「歴史の里いしおか」と思っただけの取組について、今回の施設整備の中でどのように取り組んでいくか。これは、市長のリーダーシップを発揮していただきたいと思っております。市長のお考えをお尋ねします。

○議長（関口忠男君） 市長・谷島君。

○市長（谷島洋司君） お答えします。石岡市には、石岡地区、八郷地区、それぞれに多くのすばらしい文化財が存在しております。来年度、合併20周年にもなりますが、なかなかそういうすばらしい文化財を市民にも、あるいは市外の方にも発信する場がなかったというのが現状でございます。現在検討中のふるさと歴史館につきましては、これらの多くの文化財を可能な限り展示し、あるいは、最近のVRとか、子どもたちが関心を持てるような、様々な展示方法もあると思います。そういったものを駆使していきながら、市民が石岡について誇りに思える、「歴史の里いしおか」にふさわしい施設となるよう、検討を進めてまいりたい、指示してまいりたいと思います。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） 市長からVRという言葉も出ましたので、ぜひそういう映像的なもの、バーチャルなものも展開していただきたいと思います。「歴史の里いしおか」にふさわしいという部分もなかなか難しいとは思いますが、中心市街地にある施設ですから、できれば多くの来訪者でにぎわう施設になってほしいと、そういう思いがしております。

6番目です。おまつり展示スペースについてお尋ねをいたします。今回、200平方メートル、200平米ということで提案されておりますけれども、この整備面積がなぜ200平米なのかという、その根拠をお尋ねしたいと思います。

○議長（関口忠男君） 教育部長・神谷君。

○教育部長（神谷一美君） お答えいたします。現在、想定しているおまつりに関する展示スペースは、議員からございましたとおり200平方メートルとしてございますが、これは、今回計画している企画展示室が約100平方メートルでございますので、市内に数多く残る祭礼行事、民俗芸能につきまして、当市の特徴的な文化財として充実した展示を行うことができるよう、企画展示室2部屋分として、200平方メートルと想定したものでございます。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） 決して広くない面積だと私は思いますけれども、これは何をどのように展示・紹介するのか、お尋ねいたします。

○議長（関口忠男君） 教育部長・神谷君。

○教育部長（神谷一美君） お答えいたします。いわゆるお祭りにつきましては、一般に民俗文化財と言われてございます。石岡市内における民俗文化財は、無形のものが11件、有形のもの7件が指定を受けてございます。そのほか、指定されていない市内各地域の民俗行事もございます。子どもからお年寄りまで、多くの方に訪れていただくような展示・紹介としたいと考えておりますが、具体的な展示・紹介の内容等につきましては、有識者や市民のご意見をいただきながらまとめてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） 私が思い描いているお祭りの展示とは、大分違う内容です。私は、3月の定例会の際には石岡のおまつりを想定しておりました。今回の面積は狭いし、紹介する祭りは市内各地域のお祭り、民俗芸能、民俗文化財というお話ですので、地域のお祭りを否定するものではありませんけれども、施設を整備する中で、それを見たいと思って来る人が果たしているのかということですね。

地域のお祭りは、日本全国、それはもの凄いたくさんあると思いますし、奇祭と呼ばれるものもあるでしょうし、知られていない祭りはたくさんあると思います。ただ、今回やろうとしている石岡市の教育委員会の考え方でやった場合、中心市街地にありながら、果たしてそれを見たい、二度三度見たいと思う方がいらっしゃるのかなというのは、非常に疑問です。

私的には、せっかく中心市街地に造るのであれば、関東三大祭り、市長もおっしゃっておられるように、50万人を超えるわけですね、石岡のおまつりは3日間で。中心市街地の活性化を何とかしようということで、もう20年、30年近くやっている中でうまくいかないという中で、せっかく今回、そのチャンスが巡ってきたのに、それを生かそうとしていないのは非常に不思議です。

関東三大祭りということでコマースをして、関東近県から、県内はもちろん他県からもいらっしゃるお客様が楽しみにする祭りで、おまつりの時期に来られない方も、そこにそういう展示施設があれば、見る事ができるわけです。そういったおまつりを積極的にコマースして、人を呼び集めようという考えがないのかというのが、私は不思議でならないんですね。

3番目の質問で、関東三大祭りをどのように反映させるかということを通告していますので、聞くのは無駄だと思いますけど、取りあえずお尋ねをしたいと思います。

○議長（関口忠男君） 教育部長・神谷君。

○教育部長（神谷一美君） お答えいたします。現在、教育委員会では、市指定市無形民俗文化財、常陸国総社宮祭礼の獅子・山車・ささら行事につきまして、調査を行っているところでございます。石岡のおまつりに関する展示につきましては、それらの調査結果も含めた最新の成果を反映させてまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） 何て言ったらいいですかね、関東三大祭りの文化財調査をやっているのです、そうしたものの展示をしていきたいというようなお話だったと思うんですけども、学術的なところばかりやっても、一般の観光客の方はそれを見たいと思っているわけじゃないと思うんですね。

石岡のおまつりという話になって、皆さんは当然見たことがあるはずですから、そのおまつりが持っているエネルギーがぜひ伝わるような形で、例えば大型スクリーンによる迫力ある映像を流す、または獅子頭を展示して、その獅子頭に触れていただく、持っていただくということもいいと思いますよ。こんな重い獅子を振り回しているんだという体験ですね。また、山車人形を目の前で飾ると。去年、山車人形を並べて1階ロビーで展示した際、多くの市民の方が来て、山車人形は通常山車の上にありますから、間近で見るという機会がありませんので、こういうすごい山車人形が山車

の上に載っていたんだねということで、皆さん喜んでおられました。そういったものを展示するというものも、よろしいんじゃないかと思います。

場合によっては、山車の展示ができれば、山車の綱を用意しておいて、山車を引かせてあげてもいいと思うんですよ。空山車であってもそれなりに重いですから、団体客が来たときに、こんな重いものを多くの若い方々があんなに機敏に動かしているんだという、その体験もできますから、それが可能になる施設になるわけです。

また、山車や獅子の入替えの際に、各町にお願いすれば、お囃子の実演もやってくれるはずですよ。自分の町内からイベント広場まで行く間、みんなおまつりができるということで、多分、喜んで協力してくれると思います。そういった、何かわくわくするようなことを考えられないんですかね。

首都圏から史跡巡りで市内に来られる団体客の方々を、私、国分寺の近くですから、よく目にします。柏や我孫子、千葉県から非常に多くの方が来られていますね。かんぱん横丁や国分寺、国分尼寺、総社宮、陣屋門などを散策されておられるようです。そうした方々の休憩施設として利用も可能でしょうし、石岡の歴史と文化を紹介する中核施設になるわけです。滞留時間が長くなれば、市内で飲食される機会も増えて、商業者も潤う機会が増えるんじゃないかと思います。先ほど申し上げたように、屋内ということになれば季節や天候も関係ありませんから、安定的な集客が見込めますし、観光バスも当然駐車できます。これは、中心市街地の活性化に大いに寄与すると思われるんですけど、いかがなんでしょうかね。

そこで、お尋ねしますが、複合施設整備に当たって、中心市街地の活性化、そして、商店街の人の流れをつくるチャンスと捉えて、集客施設としての構想や実現性、これを入れ込む考えがないのかをお尋ねしたいと思います。

○議長（関口忠男君） 市長直轄組織理事・浅田君。

○市長直轄組織理事兼駅周辺にぎわい創生担当兼イベント広場利活用担当（浅田禎智君） ご答弁申し上げます。今回、想定しております図書館やふるさと歴史館、おまつり展示スペースといった公共施設部分の特性の1つとして、集客性が挙げられるものと認識しております。図書館が有する貴重な文献、ふるさと歴史館が有する石岡市の歴史に触れる重要な遺物、石岡のおまつりをはじめとする石岡市の魅力を感じる民俗文化など、歴史や文化を感じることができる石岡市ならではの施設を整備することにより、文化の振興を図るとともに、観光振興やにぎわいの創出による中心市街地の活性化へとつなげていきたいと考えてございます。

そのためには、町内に限らず、観光協会などをはじめとする関係団体からも意見をいただきながら、検討を進めてまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） 集客施設として考えていきたいということですが、これ、現実的に石岡の民俗文化を展示していたら、人はそんなに来ないと思いますよ。教育委員会所管である以上、それは難しいと思います。産業戦略部が担当し、法人化した観光協会、せっかく観光協会の事務局長が、JTBでしたか、民間から来られて、今回、棧敷席なんかも仕掛けているということで、昨日、おまつりの関係の全体会議が

ありまして説明をいただきましたけど、おまつりを愛する人たちのエネルギーはものすごいですから、多分、今回教育委員会が説明されるような、市長が思い描いている、教育委員会に指示したような施設整備では、市内の人は納得しないんじゃないかと思います。

ぜひ市長、産業戦略部と観光協会を抱き込んで、できれば先ほど申し上げたように、山車とか獅子の展示ができるような、もう少し規模の大きなもので、中心市街地を元気にできるような考えを持っていただきたいと思いますと思うんですけど、市長の見解をお尋ねします。

○議長（関口忠男君） 市長・谷島君。

○市長（谷島洋司君） お答えします。今回、公共施設と民間施設を複合的に整備することにより、利便性ととも、集客性の向上に取り組んでいきたいと考えてきたところでございます。内容につきましては、担当理事からお話ございましたけれども、櫻井議員からご指摘のように、観光協会であったり、うちの産業戦略部であったり、様々な大きな可能性を秘めたプロジェクトであると思っておりますので、多くの意見を聞いて、市民の皆さんにも積極的にご意見をいただきながら、この石岡の文化や歴史を伝える魅力あるスペースにして、観光振興や地域の活性化につながるような、集客施設としてのプランを実現してまいりたいと思っております。これにつきましては、議員からあったように、全庁的に協議をし、検討を進めるよう指示をしております。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） 市長のほうから前向きな答弁いただきまして、ありがとうございます。ぜひそれが実現できるようにお願いしたいと思います。

公共施設総合管理計画で建物を80年使うと言っているわけですから、一度造ってしまって、その後いろいろ改修すればいいんでしょうけど、せっかくですから、造る際にそういった機能を持たせて、今後の石岡市の中心市街地を何とか元気にしようという思いを役所側からも発信していかないと、民間の方々がそれに対して積極的に協力してくれる環境はもう整っていますので、ぜひお互いに同じ方向を向いて、すばらしい施設整備に向けて頑張っていただきたいと思います。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。